

NRC、持続可能性の実現には、コンピューターサイエンスの発展が極めて重要であることを示す報告書を発表（6月29日）

米国学術研究会議（National Research Council：NRC）が発表した「持続可能性のためのコンピューターサイエンス研究（Computing Research for Sustainability）」と題する報告書では、スマートグリッドを活用した発電や送電、食糧生産、気候変動など持続可能性に関わる複雑かつ喫緊の課題への対応は、膨大な量のデータ収集・構築・分析が不可欠であり、コンピューターサイエンス分野のイノベーションが極めて重要であることが指摘されている。

同報告書は、持続可能性という課題にコンピューターサイエンスを適用することの究極の目的は、意思決定に必要な情報の提供・支援・促進、さらには意思決定の自動化にあるとし、コンピューターサイエンスが、代替アプローチの費用・便益比較、失敗リスクの最小化、無駄や重複の削減にいかに関与するかという具体例を示している。

同報告書はまた、学際的な取り組みの重要性を強調するとともに、個々の課題の解決こそが幅広い分野への適用可能なアプローチ法の特長と改善につながるとし、反復アプローチによるボトムアップ手法の採用を提言している。

なお、本報告書は

http://www.nap.edu/openbook.php?record_id=13415&page=R1から閲覧可能。

National Academies, Computing Advances Vital to Sustainability Efforts; New Report Recommends Problem-Focused, Iterative Approach to Research

<http://www8.nationalacademies.org/onpinews/newsitem.aspx?RecordID=13415>